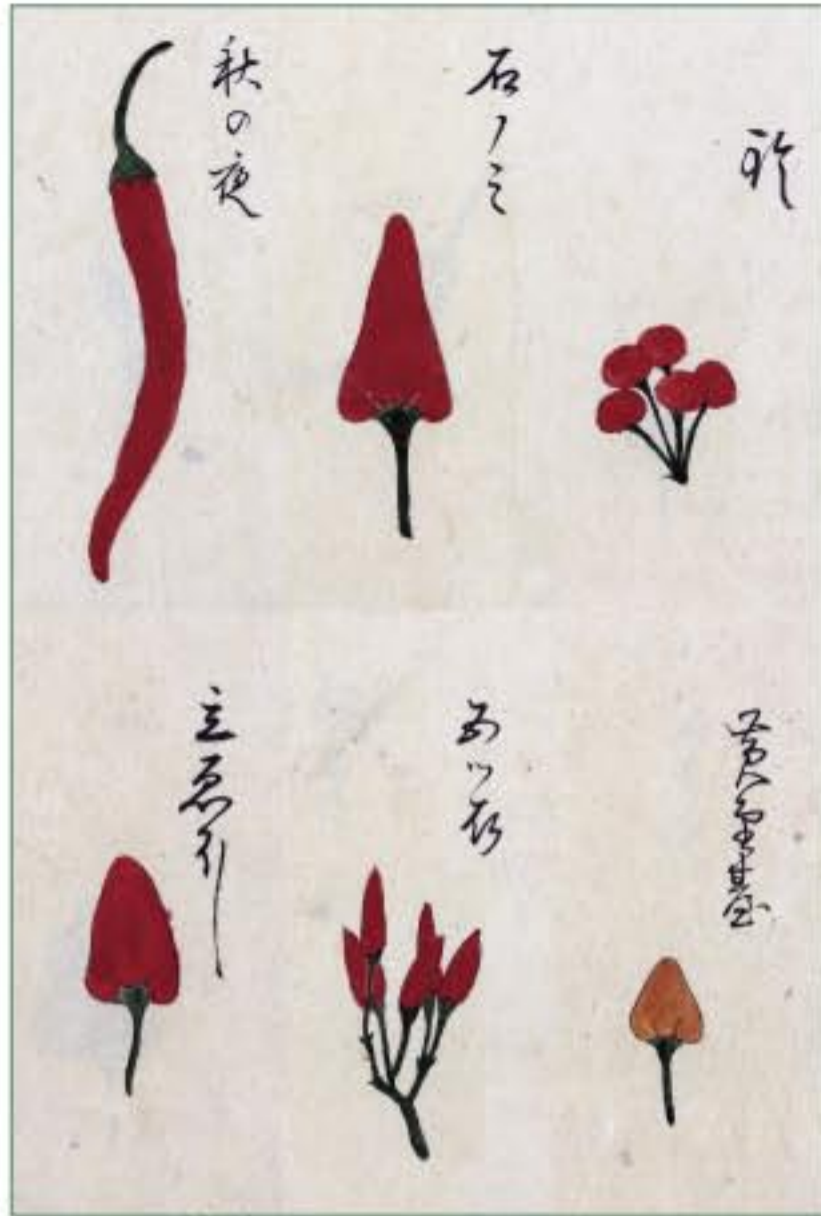


鈴 黄金巻
石ノミ 五ツ衣
秋の夜 立えぼし



とうがらし「番椒譜附圖」より (原本・一頁一図を編集)

本書の著者は、平賀源一(1732-1821)で、トウガラシの解説と図譜二冊組、因は果実の形状により、長之類赤十二、黄二、短之類赤十、黄四、甜番椒一、方之類赤七、黄二、圓之類赤九、黄六、全五十七品種を描く、成立年代不詳(不配)写本にて伝えられる。

番椒譜

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 聖 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0905 名古屋市中区東横2-18-13 tel. 052-531-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

'18 9

石ノミ園芸

秋、はじめました



① ピンクリンドウのBOXアレンジ ¥4,000+税~



② リンドウのミックスブーケ ¥2,000+税~

バースデーフラワー

~リンドウ~



③ 涼しげなバースデーリンドウのアレンジ ¥3,000+税~

少しずつ日暮れ的时间が早くなり、秋の気配を感じる季節となりました。そんな9月におすすりませすバースデーフラワーはリンドウです。リンドウとはリンドウ科リンドウ属の多年草で、秋口の野山に咲く釣鐘状の花です。秋の野の花のひとつとして、古くから親しまれてきました。漢字で書くところ「竜胆」。もともと「竜胆(りゅうたん)」とは、生薬の名前で、せんじ薬としてはおそろしく苦い胃薬だそうです。その「りゅうたん」がいつの間にか「リンドウ」に転じたと言われています。リンドウは約400種あり、そのうちの18種ほどが日本でも出回っていると

わられています。花の直径は2cm前後。小ぶりです。6枚の花びらを付けています。花弁は反るように開花する種と蕾のまま花色を染しんでいただく種があります。青紫色というイメージが強いリンドウですが、現在は品種改良も進み、白やピンクがもろんのこと、バースデーなど装や模様が入る品種や変わった咲き方をする品種も一般的によくみられるようになり、フラワーギフトとしての幅も広がってきています。ブルーホワイトのバースデーリンドウは、爽やかかわいらしいイメージに、落ち着きのあるピンクリンドウは、和テイストでシックなイメージに。アレンジやブーケに添えるだけで秋のイメージがぐっと膨らみます。また、リンドウは日持ちが良く、切り分けてコンパクトに飾れる点も魅力のひとつです。今月はリンドウで秋の訪れをプレゼントしてみたいかがでしょう。

information

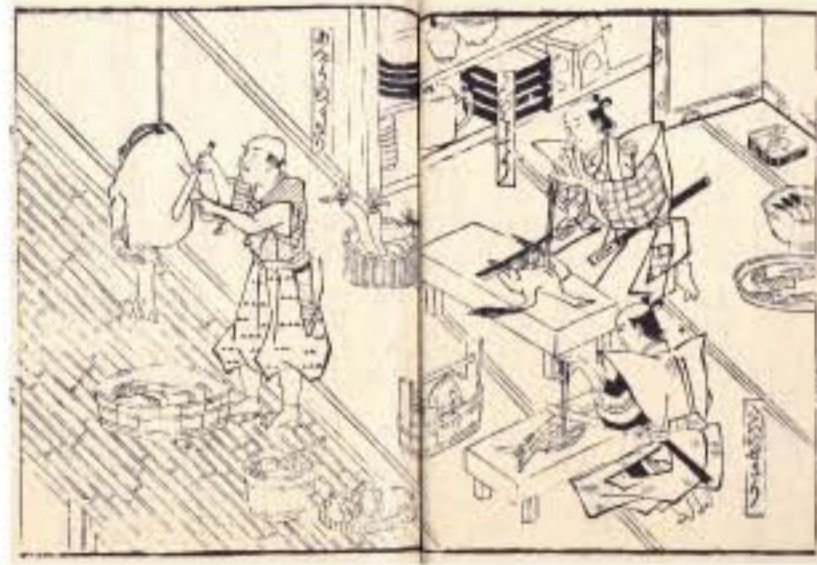
2018年10月~2019年3月『花の講座』受付はじまりました

○おすすめ講座○
NEW 講座番号22
『ガーデンシーズンリースをつくろう』
ガーデンリースの寄せ植えが最近のトレンドになってきています。コツさえつかめば素敵なリースの寄せ植えが出来ます。
*3回講座 10/10(水) 1/23(水) 3/6(水) 10:30~11:30
*講習費 3回分 3,000円(+税)
*材料費 毎回 4,000円(+税)



○お申し込みは
花の講座専用電話 Ⅲ: 052-937-3391
受付時間 月~金曜日 9:00~17:00
Webでのお申し込みは24時間OK!

こちらからもどうぞ →



料理献立抄

花の博物館

板新 料理献立抄 全一冊

著者 不詳 (無記)
寛文十二年(一六七二) 松會園板
小笠原左衛門尉亮軒

本書は料理刊本としては古版に属す。いけば花 園芸本も一六〇〇年代後半から散見できる故、寛文ころからこうした需要がでてきたのであろう。

- 内容は、「料理献立集目録」として、正月より十二月まで汁之事、田舎雑汁并精進汁之事、魚鳥精進共に吸物之事、肴魚鳥精進物取合之事、祝言引わたし之事、精進物魚鳥なます之事、魚鳥あへませ并精進すあへ之事、精進魚鳥共に煮物之事、同さしみ取合之事、同あへもの之事、わかふ詰に用る魚之事、やきものに用る魚之事、いり鳥とりあはせ之事、かまぼこに用る魚之事

右の図は貴人に茶上げる食材に手をふれないで料理する法、左は庶民用のあんこの吊し切り

Gardening Gadget Gallery

アクアプラントポット



2階資材売り場のスタッフが、今気になる園芸資材を取り上げる不定期連載「Gardening Gadget Gallery」久々の登場です。今回ご紹介するのは鉢自体が水を吸う「アクアプラントポット」です。この鉢は瓦やタイルなどの廃材をリサイクルして製造されており、無数にある鉢内部の微細な空間に水を貯めこむことが出来ます。鉢が貯め込んだ水分の中から植物が必要な分だけ水を供給するので、根腐れの心配からも解放されます。



水やりの仕方は簡単で、1週間に1回程度受皿に水をそそぐだけです。土には直接水を与えません。一般的な植木鉢に植わった植物には受皿に水を貯める行為(いわゆる腰水)は推奨しませんが、アクアプラントポットに関しては、吸水しきれない水と植物の植わった土の間にこの鉢自体が存在するため、土が過剰に水分を含むことを防いでくれます。



そもそも植物にとって土がなぜ必要か考えてみましょう。植物は根を張り、地上部を自立させます。そのためのスペースを提供してあげます。また、植物にとって必要な水分と栄養素も保持してあげます。植物にとつてそれだけ大事な土ですが、アクアプラントポットに植え込む際にはある程度土を落とす、根をカットします。土の量を減らすことで、植物の生長を抑制させ、購入時の姿を長く維持することが出来るのです。